

「天然ガス情勢の今後の展望」

< 報告要旨 >

一般財団法人日本エネルギー経済研究所
戦略研究ユニット 国際情勢分析第 1 グループマネージャー 久谷 一朗
石油・ガスユニット ガスグループマネージャー 森川 哲男

I. 天然ガス需給

1. 世界の天然ガス需要は、中長期的に堅調に増加することが見込まれている。地域別には、安価な天然ガス価格に支えられた北米需要 (+3.3%、対 2010 年比 2011 年実績) と、堅調な経済成長を背景としたアジア(+5.9%、対 2010 年比 2011 年実績) や中東(+6.9%、対 2010 年比 2011 年実績) の需要の伸びが顕著である。ただし欧州では、景気回復の遅れや発電用燃料における石炭の優位性向上から、天然ガス需要の減少傾向 (-7.9%、対 2010 年比 2011 年実績) が見られる。他方供給面では、北米 (+5.5%、対 2010 年比 2011 年実績) や旧ソ連 (+4.6%、対 2010 年比 2011 年実績)、中東 (+11.4%、対 2010 年比 2011 年実績) の生産増加が目立つ一方、需要が増えているアジア地域は生産量がわずかに減少し (-0.9%、対 2010 年比 2011 年実績)、天然ガス供給の輸入依存度が高まっている。
2. LNG 需要はこれまで堅調に増加してきたが、中長期的な視点からは増加基調が継続すると見込まれる。しかし足元では、欧州で景気回復の遅れや発電用石炭価格の低下によって天然ガス需要が減少していることや、米国において国内生産の増加によって輸入の必要性が下がっていることから、2012 年の LNG 需要は対前年比で減少する可能性が高い。原子力発電の代替として発電用の天然ガス需要が増えている日本は引続き世界最大の LNG 消費国 (世界の LNG 需要の 33%を占める) の地位にあるが、需給ギャップが拡大している中国 (+26.5%、対 2010 年比 2011 年実績) とインド (+27.3%、対 2010 年比 2011 年実績) が急速に LNG 消費量を増やしている。また量は少ないものの、需給ギャップの拡大や、供給源の多様化・エネルギー利用のクリーン化といった政策的な意図を背景に、新たに LNG を輸入する国が増えている。このような傾向は今後も継続すると見られ、したがって LNG 需要も拡大していくと考えられる。
3. LNG の供給面では、短期的には、現在世界最大の液化能力を有するカタールが引続き重要な役割を果たすほか、米英の需要減少によって大西洋市場に生じる余剰 LNG を、日本を含むアジア市場の需要に充てることが可能である。中長期的には、保守的なケースでも 2020 年には現在よりも約 6,000 万トンの液化能力を追加し、カタールを抜いて世界最大の LNG 輸出国になるとの政府見通しを発表したオーストラリアが巨大供給源として期待できる。また、活発な探査、開発が進行中のモザンビークに代表される東アフリカ諸国が新たな供給源となる可能性がある。米国からの LNG 輸出は、日本向け輸出については米国政府の判断という不透明性があるものの、世界全体の LNG 需給バラ

ンスを緩和させる効果が期待できる。このように、様々な不確実要素が存在するものの、世界の LNG 需要は今後も堅調に増加すると見られるなかで、現在立てられている新たな天然ガス液化基地計画が時期を逸することなく投資決定されれば、需要に見合った供給を行うことは十分に可能である。

II. 天然ガス価格

1. アジア向けと欧米向けの天然ガス価格差が拡大している。2012 年 9 月の天然ガス輸入価格は、日本が 100 万 BTU 当たり 17 ドルであったのに対し、イギリスは 9 ドル、アメリカは 2.5 ドルであった。2011 年度の LNG 輸入金額は前年度比 52%増の 5 兆 4,022 億円に達したが、2012 年度及び 2013 年度は約 6 兆 1,700 億円に増加すると見込んでいいる。貿易赤字が定着しつつある状況で、LNG 需要の急増や価格の高騰はマクロ経済や国富流出の観点からも大きな問題である。
2. LNG のアジアプレミアム問題の背景には、各市場の需給状況・市場流動性・価格決定方式の違いがある。米国市場は供給過剰の状況が継続しており、欧州市場は需要が低迷しているのに対し、アジア市場では日本を筆頭に需要が急増している。また、市場流動性の点では、米英市場は既に高く、大陸欧州市場においても高まっているのに対し、アジア市場では供給源が限定的である。価格決定方式の点では、米英市場が天然ガス需給自体の需給で価格が決まることが確立されており、大陸市場でも同様の方式が浸透しつつあるのに対し、アジア市場では原油リンクによる価格決定方式がほとんどである。
3. アジア市場での原油リンクによる LNG 価格決定方式は、輸入国での石油を天然ガスに代替させること意図として導入された。しかし、LNG 導入当初と比較して天然ガス転換が進んだ現在においては、原油リンクの合理性が失われてきている。原油リンクに代わる価格決定方式のオプションとしては、ハブ価格リンク、LNG スポット価格リンク、他燃料価格リンクが考えられるが、どの方式も長所や短所がある。どのような価格決定方式が採用するにしろ、アジア市場での需給状況を正確かつタイムリーに価格に反映されることが重要である。
4. アジアプレミアムは構造的な問題であり即効性のある対策は存在しない。需給緩和のための上流開発促進や LNG 火力発電設備の高効率化といった需要抑制、市場流動性向上のための供給源多角化を進めることが基本である。輸出許可を巡る不透明性や Henry Hub 価格リスクはあるものの、米国の LNG プロジェクトは供給源多角化に資するものである。また、産業構造を超えた共同購入など LNG 調達形態の検討も重要である。さらに、パイプラインによる天然ガス輸入も供給源多角化のみならず、国内インフラ整備への相乗効果が見込めるため、長期的、戦略的観点から検討する必要がある。

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp